

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 30

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「心をひとつに」

ルワンダの教育を考える会
会長 マリールイズ

皆様の温かい御支援と御協力によっておかげさまで今年度も5回目の小学校卒業生を送ることが出来ました。今年は東日本大震災があったにもかかわらずたくさんの方々を支えられて活動を続けられたことに感謝します。

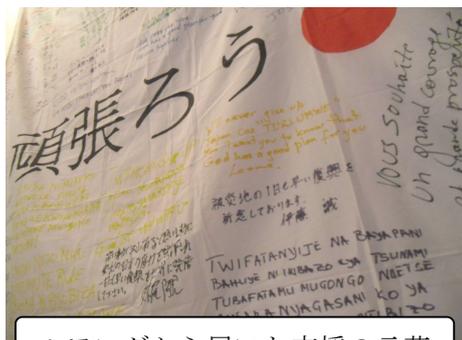


日本から届いた遊具で遊ぶ園児

7月にはネパール竹笛コンサートを予定通り開催することが出来ました。そのときにたくさんの皆様が寄せてくださった義援金の一部は、相馬市で津波によって親を亡くした子ども達のために奨学金にさせていただけるように寄付させていただきました。そしてもう一部はルワンダのウムチョムゥイーザ学園に教育支援として送らせていただきました。おかげさまでそのお金で、園庭にさまざまな遊具をそろえることができました。



会場でいただいた義援金



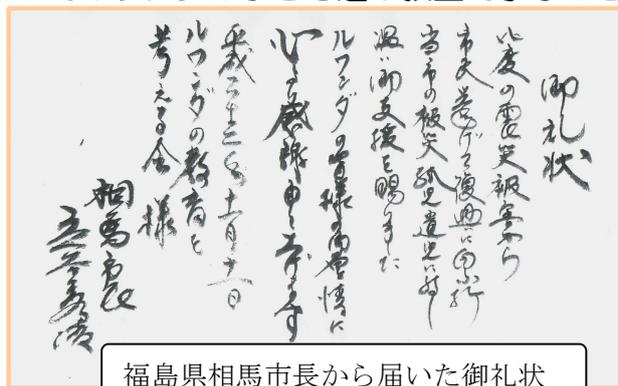
ルワンダから届いた支援の言葉

2011年9月11日に、震災で犠牲になった皆様のために、日本の今や「フクシマ」の現状を伝える「つどい」をルワンダで開催すること

ができました。ルワンダ在住のJICA職員の方々やJOCV（青年海外協力隊）のメンバーの協力を得て、ルワンダの人々と心をひとつにして亡くなったたくさんの魂が安らかに眠れるように祈りました。そして、生き残った人々が一日も早く安心して暮らせるようにと祈りました。その場で、参加してくださった皆さんが寄せてくださった義援金13万円を2011年11月11日に相馬市に届けてきました。今回も被災孤児遺児の奨学金に使って欲しいとお願いしてきました。

今までたくさんの日本の方々の支援によってルワンダの子ども達が教室で学ぶことによって夢を取り戻していただいたように、相馬の子ども達も教室で学ぶことによって希望と夢を持ち続けてほしいと心から願っています。

これからもすべての子ども達が夢を持って安心して生きられる良い世界になれるように精一杯活動を続けます。どうぞ皆様、あたたかい御協力を引き続きよろしくお願いいたします。



福島県相馬市長から届いた御礼状



2011年2学期（4月～7月）の学費の納入状況の報告

単位：人 *時価換算による。単位：円

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
補習料	高学年生は土曜日に補習を行っています。						8	16	16	40人	25,627
100%	2	7	2	13	6	16	8	16	16	86人	576,408
その他	0	4	4	11	5	7	7	6	6	50人	191,742
0%	7	4	10	7	7	4	8	17	3	67人	0
合計	9	15	16	31	18	27	23	39	25	203人	793,777
予算額											1,417,759
不足金額											623,982



ウムチヨムイーザ学園の会計報告

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	793,777	職員への給料	1,275,649	先生へ貸し出し	10,776
日本からの支援	1,154,507	設備維持経費	37,490	税金や銀行への返済金	190,900
入学登録料	0	通信費	9,791	予備費	12,091
バス運行収入	0	消耗品	9,843		
水販売収入	7,808	車の維持費	23,327		
家畜収入(やぎ・うさぎ)	0	研修会議費	92,638		
その他の収入	4,008	保険料	0		
個人寄付	0	環境整備費	139,878		
他の NGO からの寄付	0	その他の経費	670		
ADESOC会費	0	備品	0		
銀行からの借入れ	262,840	建設費	118,804		
1学期からの繰越金	35,640	小計	1,708,090	小計	213,767
合計	2,258,580			合計	1,921,857

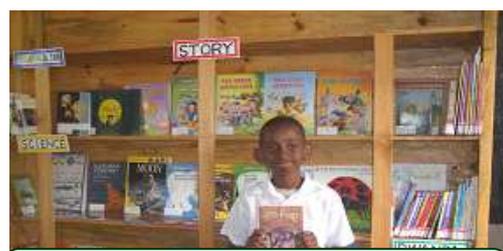
残金 336,723



2005年度に外務省からの日本NGO連携無償資金協力により送られたコンテナに、ルワンダ在住 JICA 職員の家族に素敵な絵を描いていただきました。



ネパール竹笛コンサートの募金により学園に遊具がそろいました。



京都の中地さんから、学園に図書がプレゼントされました。

NPO法人 ルワンダの教育を考える会 PRESENTS !!

11年間の感謝を込めて・・・

ルワンダDAY in ふくしま ネパール竹笛コンサート



日時 2011年7月18日(月 海の日)
開場 13:30 開演 14:00
場所 福島市A・O・Z (アオウゼ)



ネパール出身の兄“パンチャ”さんと弟“サラバン”さんの兄弟デュオは、福島の地に元気と優しさを届けられました。

また、当日は桜の聖母短大生や県北高校JRCの生徒さんをはじめたくさんのスタッフが活躍してくれました。お互いに忙しい日常をかかえている中で、ほとんど打ち合わせもなかったのですが、展示物担当・販売担当・調理担当等・・・チームワークで乗り切ることができました。これからも、よろしく願いいたします。

コンサートを企画・演出した会員からの報告を紹介します

会員 斎藤照子



今回演奏して下さったパンチャさんは、ネパールでは国民的バンスリ(竹笛)奏者として名高く、サラバンさんは、タブラ(太鼓)の超絶技巧で有名と言う方達でした。来日してから10年以上、東京に在住、全国でコンサートを開催。生地サラヒヒ村に小学校を建設、支援しております。

私は10年来、お二人が奏でる素晴らしい音楽と、そのすてきな人柄に魅せられて、一緒にネパール子ども達を支援して参りました。

さて、このお二人の息の合った心にしみる音楽を、皆さんはどのように受け取って下さったのでしょうか。パンチャさん、サラバンさんは、音楽の持つ力を、見事に具現して下さいました。

お二人の奏でる音色は、震災や放射線で苦しむ福島の方たちの心に、まっすぐ届いたと思います。会場全体が、お客さん、出演者、スタッフの三者が喜びを共有した楽しさで満たされたと感じました。音楽に合わせて手拍子を打つ。舞台前で踊る。笑顔と力強い手拍子を包んで、鳴り響くバンスリとタブラ。あの時の心躍る情景を、忘れることができません。

このように素晴らしいコンサートを、皆さんと共有できた喜びと感謝でいっぱいでした。



このコンサートに寄せられた皆様からの募金を、相馬市の津波被災遺児へ238,296円、ルワンダの子ども達へ128,973円送ることができました。
ありがとうございました。



8月17日～20日に宇都宮冒険活動センターで実施されました

“のびのびキャンプ2011”に参加して



広野町より原発避難している会員 鈴木恵子

私の孫は、福島市内の小・中学校に通っております。

本会のカンベンガ・マリールイズさんより、「3泊4日で福島
の小学四年生から中学二年生の子ども達を対象に、宇都宮で夏休
みキャンプをするので参加しませんか」とのお誘いを受けました。



ちょうどその頃、放射線問題でホットスポットにあり、小学四年生の男孫の学校と
中学二年生の女孫の通う学校が校庭の除染で土を削っているところでした。娘も、夏
休みは放射線の影響のないところに子ども達を行かせたいと考えていたようで、さっ
そく参加申込みをしました。

本会からスタッフとして「鈴木さん御夫婦でいかがですか」の言葉に、緊急時避難
準備区域の指定を受けた広野町を離れ、数ヶ所でお世話になる生活をしていましたの
で、団長がルイズさんであることも知らず「孫と一緒に楽しいな」くらいに思い、甘
えて年齢不相应に参加してしまいました。



参加して驚きました。奈良県の畿央大学の教職員と学
生さんが、子ども達29人とマンツーマンで、自然にふ
れ・遊び・話し・心が元気になるスケジュールを企画し
てくださった内容でした。

さすがに教育学・看護医療・理学療法・臨床心理学の専門大学の先生と学生さん達
と、旅行会社・児童相談員と、みなさんがボランティアで子ども達と生活を共にしてく
ださるのですから、留守の御家族はどれほど安心して送り出せたでしょう。

60代後半の私ども夫婦が孫達と学生さん達と同じ動きが出来るはずもなく足手まど
いになったと思いますが、原発避難の我慢の日々を忘れ幸せでした。

中学二年生の孫が学生のお姉さん達に魅力を持ちあこがれる姿を見てうれしく思い、
小学四年生の孫は学生さん考案の「あたりまえ体操」や話を聞く前の合言葉「わいわ
い・がやがや」など繰り返し言葉に出し楽しむ姿などを見るにつけ、顔色が悪く元気
がなかった孫達が、キャンプでのびのび生活
来たこと、企画準備にあたられたルイズさんは
じめ実行委員会の皆様に感謝申し上げます。



ありがとうございました。

『ウムチョムウーザ学園での図書館づくり』

会員 中地フキコ



緑豊かな丘陵地帯、点在する家々のトタン屋根がまぶしく光る。ルワンダの空港に降下する飛行機の窓から見える田園風景は、平和でのどかだった。まさか、ここで17年前に80万人～100万人の命が奪われたジェノサイドがあったなんて、とても信じられない。マリールイズさんと私は、8月末の暑い日本から、色とりどりの花が咲き乱れる涼しいキガリ空港に降り立った。

私のルワンダ訪問の目的は2つ。1つは、ウムチョムウーザ学園に図書館をつくること。2つ目は、国際支援が届かない山奥のコンゴナイルの学校に支援金と本を渡すことだった。

ルワンダに着いた次の日の朝、ルイズさんとウムチョムウーザ学園を訪れた。11年前、レンガを積み上げるところから始めたという教室はいまや15教室。集いに使える多目的教室もあった。しかし、日本の学校にあるような理科室や家庭科室、音楽室、そして、学校図書館などの特別教室は見当たらない。保健室や給食室、体育館もまだない。私は、教頭先生と校舎を回り、物置になっている空き教室を図書館にすることにした。

高学年の子どもたちに、「どんな本が読みたい？」と尋ねると、弾けるような笑顔で答えてくれた。「おもしろい本」、「アクションもの」等の声が返り、「ハリーポッター！」と書名を挙げた男子や、「ラブストーリー」とはにかみながら答えた女子もいた。

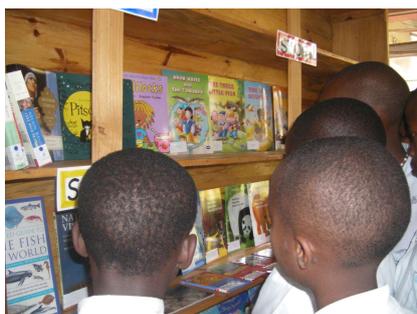


午後、首都キガリの本屋さんには、どんな本があるのか、下見に行く。JICAの佐々木さんに案内してもらって、ルイズさんも一緒に、2軒の書店と1軒の出版社、そして、スーパーマーケットの書籍売り場を見て回った。書店に置かれているのは、フランス語で書かれた本と英語で書かれた本ばかりで、現地語キニヤルワンダ語で書かれた児童書は出版社にしかなかった。2009年に公用語となった英語の本も読んでほしいが、何よりも自国の言葉を大切にしてほしいと思っていたので、キニヤルワンダ語で書かれた数少ないルワンダの昔話の本を全て購入することにした。

翌9月1日、銀行でルワンダフランに両替し、佐々木さんと昨日チェックした本を買いに行く。午後、学園に戻ると、空き教室の棚に雑然と並んでいた古い教材等はきれいに片づけられていた。早速図書ラベルをつくり、本に貼る作業に入った。2日目の配架作業は、先の佐々木さんに加え、ルイズさんのお宅にホームステイしている大学生の捧(ささげ)さんと福井さん、一人でルワンダを旅している大学院生の乾さん、それに、ケニアから来た青年が手伝ってくれたので、かなりはかどった。本の分類表示や[LIBRARY]という簡単な看板も掲げることができた。

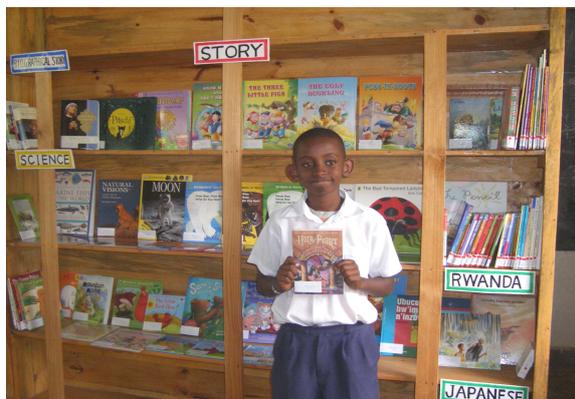


5日に本を買い足して、図書館づくり第1回目の目標は、ささやかながら一応達成。しかし、やっと本棚1つが埋まった程度だ。もっと多くの種類、もっと多くの冊数が必要だ。少しずつ本を増やして、早く図書館らしくしたいなあ、と思う。



作業終了とともに、どっと部屋に入ってきた子どもたちは、思い思いの本を手に取り、楽しそうにページをめくっていた。食い入るように動物図鑑を見ていた子がふと顔をあげたとき、私と目が合い、にっこり笑った。子どもたちの目がいきいきと輝くのを見るのは何よりもうれしい。惜しみなく手伝ってくれた若者たちと、部屋の片付けをしてくださった職員の方に感謝している。

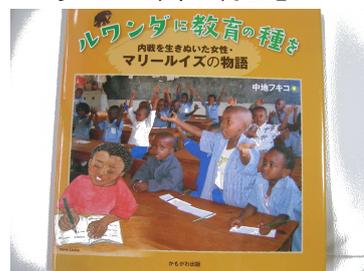
本を読むと、そこに居ながらにして様々な世界に旅ができる。ドキドキワクワク胸を高鳴らせて読書の楽しさをうんと味わってほしい。本は知識を与えてくれるとともに、心を豊かにしてくれるし、考える力もつけてくれる。つまり、「本は生きる力をつけてくれる」のだ。いろいろな本をたくさん読んで、健やかに成長して行ってほしいと思う。



配架した本は、『ルワンダに教育の種を 内戦を生きぬいた女性 マリールイズの物語』(かがわ出版 著者 中地フキコ)という本の収益金で購入した。この本は、私がマリールイズさんのパワフルな生き方を、日本の子どもたちに知らせたいと思って書いた本である。



この本がたくさん売れば、ウムチヨムウイザの図書館の本も増える。お知り合いの方に勧めただけであれば、ありがたい。



—福島から京都に避難されている方からの感想文—

本を読んで、マリールイズさんが福島にいらっしゃる意味、歩んでこられた人生 — 疑問が解けました。

それと同時に「教育は平和を築く」ことを再認識しました。

私も以前から子どもと教育には関心を寄せていて、フォスタープランやユニセフなどに細々と寄附をさせていただいていたのですが、本当にそうなのですね。

知ること。夢を、大きな視点を持つことが、人の人生を輝かせ、光をもたらすことにつながるのだと感じました。

翻ってみれば、中地さんがこの本を書かれたことは、まさにそれと重なることですね！

そして、もう一つ、この本は、人々に勇気を与える本だと思います。

何があっても前を向いていれば、また道が開ける、そんな気持ちにさせてくれました。

神谷景子





サイレントサマー ・ フクシマ

作詞作曲 大河原伸

1. まぶしい太陽 光る青空 ひまわりの丘の 白い雲
畑のトマトがたわわに実り 紫のナスが風に揺らぐ
いつもと同じ夏が来たのに 子どもの姿がそこにはない
静かな静かな サイレントサマー・フクシマ



2. 鉛の雲が急に拡がり 白い稲妻縦に走る
雨音が消えて日差しが戻り 見上げればそこにでかい虹
いつもと同じ夏が来たのに 子どもの姿がそこにはない
静かな静かな サイレントサマー・フクシマ



3. キラキラ光るプールの上を ツバメの親子が円を描く
花壇に広がる赤いサルビア 校舎の窓に空が写る
いつもと同じ夏が来たのに 子どもの姿がそこにはない
静かな静かな サイレントサマー・フクシマ

五感で感じられるのは素晴らしいいつもの自然、しかし放射線量測定器の示す数字は、2011年3月11日以前の数値とは違う。

「生活していても直ちに危険はない」が次世代になんらかのリスクがあるかもしれないと、子どもを抱えた親達は、外での遊びを控えさせました。

子どもの笑い声が聞こえない悲しい夏を心にとどめておきたいと思い作ってみました。

ルワンダの子どもたちへ

ルワンダフルクリスマスキャンペーン

ルワンダフルクリスマスキャンペーン期間:

12月1日~12月31日

ルワンダの子どもたちへの募金箱を設置して
いただける場所を募集します!!

連絡をいただければ設置場所への依頼文を
送らせていただきます。



★各種振替口座番号のご案内です!★

会費振込・寄付・募金(奨学基金もよろしくをお願いします。)

郵便振替口座: 02290-0-97126

加入者名: NPO法人 ルワンダの教育を考える会

本年度の会費
納入状況をお
知らせします。

ソーラー発電...ソーラー発電機を増やし、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座: 02200-2-77634

加入者名: ルワンダ ソーラー発電P

HELP

事務局では、事務局スタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。

—編集後記—

薄い放射能が降り注いだ「フクシマ」しかし、
ここで生きるために、フィットネス
や味噌汁・どくだみ茶に梅干など体
にいいことを実践中
心と体に免疫力アップ!!



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 カベウカ・マリルズ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目 8-20

TEL / FAX: 024-533-8289

ホームページ: <http://www.rwanda-npo.org>

e-mail: info@rwanda-npo.org

